

インターバンクの声（2015年1月26日）

2015年に入ってすぐに1.20ドルを割り込み、その後も緩やかに下落を続けていたユーロ相場だったが、22日に開かれた欧州中央銀行（ECB）の量的金融緩和決定を受け2005年につけた安値はおろか、2003年以来となる1.11ドル台にまで値を下げている。さすがに対ドル1.00のパリティーまでは距離があるような気もするが、昨年1.40ドル目前からの下落の速さや足許のユーロ相場を取り巻く条件を考慮すれば、比較的短時間で届いてしまう可能性も否定できないだろう。ギリシャの総選挙での野党・急進左派連合が勝利することも想定済みだとして、仮にそうした結果となっても更なるユーロ売りインパクトは少ないだろうとされていたが、いざその野党・急進左派連合の圧倒的勝利が伝わり始めると、月曜のアジアは下窓を空けて再びユーロ売りが始まっている。指標発表や米連邦公開市場委員会（FOMC）などのイベント目白押しの週となるだけに、ユーロだけでなく為替相場全般が大荒れになることに要注意だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。